

横浜市教育委員会  
臨時会会議録

- 1 日 時 平成26年1月24日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 今田委員長 奥山委員 間野委員 西川委員 岡田委員
- 4 欠席委員 坂本委員
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

# 教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

平成 26 年 1 月 24 日（金）午前 10 時 00 分

1 会議録の承認

2 教育長一般報告・その他報告事項

平成 26 年「成人の日」を祝うつどいについて ほか

3 審議案件

教委第 56 号議案 横浜市学校保健審議会への諮問について

教委第 57 号議案 横浜市学校保健審議会委員の任命について

教委第 58 号議案 平成 26 年度歳入歳出予算案に関する意見の申出について

教委第 59 号議案 平成 25 年度歳入歳出予算案（2 月補正）に関する意見の申出について

教委第 60 号議案 平成 25 年度横浜市教育委員会表彰に係る被表彰者の決定について

教委第 61 号議案 平成 25 年度横浜優秀教員表彰に係る被表彰者の決定について

教委第 62 号議案 教職員の人事について

教委第 63 号議案 教職員の人事について

4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

～傍聴人入室～

今田委員長

それでは、ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。本日は、坂本委員が御欠席との連絡を受けております。

初めに、会議録の承認を行います。12月13日の会議録の署名は、奥山委員と私です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、承認いたします。なお、字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、前回1月10日の会議録については、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育長から一般報告をお願いします。

岡田教育長

**【教育長一般報告】**

1 市会関係

報告いたします。市会の関係はございませんでした。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

○1/13 「成人の日」を祝うつどい（横浜アリーナ）

○1/18 教育実践フォーラム（開港記念会館）

○1/23 第57回横浜市学校保健大会（関内ホール）

(2) 報告事項

○平成26年「成人の日」を祝うつどいについて

○平成25年度横浜市立小中学校児童生徒体力・運動能力調査の概要について

教育委員会の主な会議等ですけれども、1月13日に「成人の日」を祝うつどいを横浜アリーナにて開催いたしました。今田委員長に御出席いただきました。

1月18日は教育実践フォーラムを開港記念会館で開催いたしました。今田委員長、奥山委員、西川委員に御参加いただきました。

1月23日、昨日ですが、第57回横浜市学校保健大会を関内ホールで開催いたしました。西川委員に御出席いただきました。

報告事項が2件あります。1件目は先ほどお話しした「成人の日」を祝うつどいについて、結果の報告をさせていただきます。生涯学習文化財課から後ほど御説明させていただきます。

もう1件は、平成25年度横浜市立小中学校児童生徒体力・運動能力調査の概要につきまして、所管課から御説明させていただきます。

以上です。

今田委員長	<p>教育長の報告が終了しましたが、御質問等ございますか。</p> <p>御質問がなければ、別途所管課から説明とありました「平成26年「成人の日」を祝うつどいについて」、説明をお願いします。</p>
高倉教育政策推進等担当部長	<p>おはようございます。教育政策推進等担当部長の高倉です。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、1月13日に開催されました「成人の日」を祝うつどいにつきまして、生涯学習文化財課長から御説明させていただきます。</p>
石田生涯学習文化財課長	<p>生涯学習文化財課長の石田でございます。よろしくお願いたします。先ほどの教育長の報告にもありましたように、1月13日、「成人の日」を祝うつどいを開催させていただきました。今田委員長にも参加いただいたところでございます。</p> <p>日時は1月13日の午前と午後の2回に分けて、場所は横浜アリーナで開催させていただきました。これは例年同様な形で開催しておりまして、内容につきましても、主催者側の挨拶あるいは新成人の誓い、ゲストとのトークショーといったものでございました。ゲストは立石諒さんで、ロンドンオリンピック銅メダリストでございまして、比較的新成人の年齢と近いということもあって、実行委員などもいろいろ意見交換ができたと思っております。</p> <p>対象者数は、3万4,247人ということで極めて多い人数でございまして、参加者数は、午前、午後を合わせまして2万2,571人でございました。参加率は65.9%で、これは過去5年間で見ますと1番高い数字になっております。多くの方にご参加いただいたと思っております。</p> <p>ちなみに前回は58.5%ということで、ちょっと低い数字でございました。これは雪が途中から降りましたため、新成人の方には気の毒な状況でございました。</p> <p>その他の関係でございしますが、協賛、協力はご覧のとおりの方々になっております。また動画の配信を予定しておりまして、参加いただけなかった新成人の方も、どんな様子だったのかご覧いただきたいと思っております。これは15分程度にまとめまして、2月の月上旬から配信をさせていただく予定でございまして、報告は以上でございます。</p>
今田委員長	<p>ありがとうございました。所管課から説明が終わりました。何か御質問等ありましたらどうぞ。</p> <p>よろしいですか。御苦労さまでした。</p> <p>それでは、特に御質問等がなければ、次に「平成25年度横浜市立小中学校児童生徒体力・運動能力調査の概要について」、説明をお願いします。</p>
入内嶋指導部長	<p>指導部長の入内嶋でございます。今話がございましたように、本市では児童生徒における体力の状況を明らかにいたしまして、学校の体育の指導や、体育に係わる行政上の基礎資料のために、毎年体力・運動能力調査を行っているところでございます。本年度の調査結果がまとまりましたので、御報告をさせていただきます。担当課長より説明させていただきます。</p>
上條指導企画課長	<p>指導企画課長の上條でございます。よろしくお願いたします。今部長から話がありましたように、本年度実施いたしました体力・運動能力調査の結果の概要をまとめましたので御報告をさせていただきます。今お手元にある資料を見なが</p>

ら、お聞きいただけたらと思います。

なお、この調査は、横浜市独自に昭和41年度から実施をしております。説明に入りたいと思います。

説明の冒頭ですが、3ページをまず開いていただけますでしょうか。3ページ下段の、四角で囲ってあるところです。調査の概要ですが、横浜市立小中学校全校の児童生徒、約27万人を対象として、昨年の4月から7月に実施しております。調査項目は3のとおりです。データの抽出に関しては、各小中学校の各学年男女20名ずつで、全体の約3割となっております。

それでは、元のページに戻っていただけますでしょうか。大見出しに「学年が上がるほど走る力が向上！投げる力が課題」と載せさせていただいております。

1の特徴でございます。

(1)の本市が目指している昭和60年度との比較です。本市では、平成22年3月に策定いたしました「体力アップよこはま2020プラン」において、小中学校児童生徒の体力を、本市のピーク時の昭和60年度の体力水準に回復することを目標としております。

中段でございます、左側の「男子50m走」のグラフをご覧ください。こちらのグラフは昭和60年度と平成25年度の結果を、年度ごとに比べたものでございます。棒グラフの左側、濃い網かけの部分になりますが、これが本年度の結果です。棒グラフの右側の薄い網かけになっているところが昭和60年度の結果でございます。また、左側のスケールが秒を単位としております。その中に書かれております折れ線グラフですけれども、昭和60年度と本年度の50m走のタイムの差を表しております。例えば6歳のところは0.37とございますが、本年度と昭和60年度の差が0.37秒あるというふうに見ていただけたらと思います。学年が上がるに従って、その差が縮まっております。特に14歳のところを見ていただくと、マイナス0.01という形で表示をしておりますけれども、昭和60年度を超えております。

このグラフからは小中学校を通じて、大見出しに書かせていただいたとおり、学年が上がるほど走る力が向上していることが伺えます。右側の女子のグラフも同様のことが言えるのではないかと、このグラフから見るができると思います。

続きまして、(2)過去10年の経年比較でございます。こちらのグラフは小学校1年生から中学校3年生までの男女全てを合わせた平均を経年で比較したものでございます。

一番下にあります左側の「上体起こし」のグラフをご覧ください。平成15年度から多少の上がり下がりがありますが、平均値は右肩上がりに上昇している状況です。これらの結果は、市内各学校が授業改善や「体力向上1校1実践運動」などの取組を行い、運動機会の確保や運動意識を高めてきた成果であると考えております。

右側の「ボール投げ」のグラフをご覧ください。「ボール投げ」の平均を経年で比較したのですが、先ほどとは逆に低下傾向にあります。右下がりになってきているという状況です。

大見出しに書かせていただいた「投げる力が課題」というのは、この「ボール投げ」のグラフによるものでございます。

2ページをご覧ください。2の調査結果の概要でございますが、全国平均の数値につきましては、小学校5年生、中学校2年生以外の本年度の結果が未公表となっております。そのため、全ての学年で、昨年度の数値を比較として使用しております。

まず（１）体格ですが、児童生徒の体格の平均は男女とも全国平均とほぼ同水準であります。男子につきましては、小学校１年生から３年生まで身長、体重ともに上回っております。女子の体重につきましては、わずかながらですが全ての学年で全国平均を下回っております。

体格は以上です。

（２）新体力テストの結果でございます。新体力テストの８種目の結果を得点化した「体力合計点」は、本市の24年度と比較すると若干下回っている学年があるものの、ほぼ横ばいとなっております。

全国の「体力合計点」との比較では、全学年で下回っております。

続きまして、（３）の生活実態調査でございます。左側の表ですけれども、小学校５年生の朝食喫食率の表でございます。毎日食べる子供の割合を全国と比較すると、男女とも高い割合になっております。

右側の小学校５年生の１日の睡眠時間の表でございます。こちらの表の８時間以上睡眠する子を全国と比較しますと男女とも高い割合になっております。

生活実態調査につきましては、「早寝・早起き・朝ご飯」など、全国平均と比較して生活習慣が定着していることが伺えます。

続きまして一番下の表でございますが、こちらは今年度より新たに設けた１日のパソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間についてのグラフです。左側のグラフの一番上にあります網かけ、４％、７％、９％と書かれている部分を見ていただくと、一番上段の部分の網かけの部分が、３時間以上視聴を行う子供たちの割合です。また、グラフの一番下の薄い網かけ、74％、65％、58％といったパーセントが書かれているところですが、この部分は１時間未満の子供たちの割合です。

これらの結果から、男女とも学年が進むに従い視聴時間が増加傾向にあるというふうに言えると思います。

３ページをご覧ください。運動の実施時間についてでございます。こちらは各学年ごとに、１日の運動の実施時間として２時間以上運動する子、１時間から２時間未満運動する子、30分から１時間未満運動する子、運動が30分未満の子という形で４段階に分かれております。

左側の男子のグラフでは、学年が進むに従い運動時間が増加しております。一方で、右側の女子のグラフにつきましては、小学校で２時間以上の児童は15%以下ですが、中学校２、３年生になると40%以上に増えます。30分未満の生徒も34%になります。特に女子の運動実施時間の二極化が見られると思います。

最後でございます。３番の今後の取組でございますけれども、「体力向上１校１実践運動」の指標を各学校が設定し、その指標に基づいて振り返りを行い、より効果的な「体力向上１校１実践運動」ができるようにしていきたいと思っております。

２つ目の取組です。新体力テスト集計プログラムを全小学校に配付し、小学校児童の全数を調査し、より詳細に子供の実態を把握し、その結果を健康に関する資料や体育行政上の基礎資料として活用してまいりたいと思っております。

最後に、市内各学校が体力向上のための全体計画として作成しております「体育・健康プラン」に基づき、今後、学校・家庭・地域との連携をしていきたいと思っております。

あと、お手元に厚めの冊子を入れさせていただいております。「平成25年度横浜市立小中学校児童生徒体力・運動能力調査の概要」でございます。

説明は以上でございます。

今田委員長

所管課から説明が終わりました。何か御質問等ございましたらどうぞ。

奥山委員

詳細にわたりまして御説明ありがとうございます。一番初めの、走る力が向上しているところでは、学校現場の努力等により、学年が進むにつれて完全に回復しているということを知って、とても心強く思いました。

ただ、これを見ますと、小学校に入る前の体力づくりが課題として見えてくるように思います。これまで以上に幼保小連携が重要だと思いましたが、なかなか保育との連携が難しいという事態もあるのかなと思います。引き続き、そういった連携を進めていくということが大事かなと思いました。

あと、2ページと3ページのパソコンの時間のところと、それから運動の実施時間のところについて、パソコンの視聴時間は長い部分が下に来ていて、運動の実施時間のほうは長い部分が上にありますね。多分見せ方なのだと思うのですが、並び方はこれで良いのでしょうか。すみません、どっちがどっちかなと見ながら、先ほどは聞いていました。

ここを見たときに、やはりこれは現代的な課題なんだろうと思うのですが、ここを何とかしていかなくちやいけないんだろうと思います。

特に中学校に入ってからの女子がそうですけれども、実施時間の二極化ということは随分長くから指摘されていたことだと思うんですね。ですので、中学校になれば部活の時間というのがかなり影響すると思うんですけれども、部活に入っているか入っていないかでかなり差がつくということではなく、そこは部活に入っていないでもきちんと習慣化された運動ができるんですね。取組を少し具体的に進めていくことも必要じゃないかなと思うのですが、その辺り、もし何か御意見や取組があれば教えていただきたいと思います。

上條指導企画課長

今、奥山委員からお話いただきましたけれども、学校教育でとなると、部活動、それから体育の授業という形での取組、あとは中学生ですので、小学校と同じ中休みに行くというのはなかなか難しく、昼休みに外へ出てという声かけなどは、学校現場の中でやっただけの状況でございます。さらにそれを進めていくことが、部活に入っていない子供たちの運動時間の増加につながっていくのかなと思いますので、少しでもそういう手だてを考えていきたいのが1点でございます。

それから今、部活動のプロジェクトもやっておりますが、その中で検討もまた進めていかなければいけないのかなと思っております。具体的なことがなくて申し訳ないのですけれども。

奥山委員

是非、間野委員にコメントをいただけたらと思うんですけれど。

間野委員

今、子供の身体活動量をどう増やしていくかということなのだと思いますけれども、東京都教育委員会が取り組んでいる例は、遊具というのか、ボールとか縄跳びとか、そういったものを各教室に置くことによって、子供の身体活動量が上がったり、あるいはさらに体幹を鍛えるために、けんけんのような片足でのいろんな遊びを、大学生が入って誘導したりするんですね。ですから、自然発生的に何か、いつの間にかということではなくて、そういう仕掛けを作っていくのが必要じゃないかと思えます。

中学生になると、だんだん昭和60年度の値に近づいていっているのでも、やはり奥山委員がおっしゃったように、できれば幼児期から行うのが良いと思います。市立だと難しいとするならば、小学校低学年の段階から身体活動量を増やすよう

な仕掛けを作っていく必要があるんじゃないかと思います。

それと、大変な集計、分析お疲れさまでした。せっかくやられたので、これは本当に統計的な有意かどうか、有意差検定をなされたほうがいいんじゃないかと思います。

テレビの視聴時間とかパソコンの視聴時間の差によって本当に体力が下がるのかどうなのかということは、これだけ見ると分からないんですね。平均値の差の検討でも、分散分析でも何でも良いので。今時そういったものは全部ソフトに入っています。どこの学年に何の差、統計的に本当に差があるのか。例えば、レジュメ1番の上体起こしの平均値経年変化について、これが増えてますというふうに右肩上がりとか右肩下がりと言ってますけど、本当に24年と25年に順位が下がったのかどうなのかとかですね。これはスケールを16.5から19に縮めているので、上がっているのではなくて、ゼロから作ると多分ほとんど横ばいに見えてしまうので、このように作るわけなんですね。

ですから、あんまりそういう見た目ではなくて、本当に統計的に意味がある、差があるのかどうなのかを、きちっと調べたほうが良いのではないかと思います。

今、子供の身体活動量を増やすための様々な研究が全国で行われていますので、そういう知見も是非参考にされては良いのではないかと思います。

以上です。

西川委員

生活実態調査の小学5年生の実態の部分で、8時間以上睡眠を取っている児童が半分以上いるという実態があるという説明を受けましたが、この小学校5年生だけでなく、中学校のどこかと比較できるように2つありますと、こういうふうに変わっていくのかな、というのが分かると思います。中学校だと睡眠時間が増えていない子がいるような気がするんです。それと同時にパソコン、それからゲームの時間帯もいろいろ変動していますし、その辺の関連がちょっと見えると良かったかなと思っております。

それから、今、間野先生のお話がありましたが、やはり体力を子供につけることが、将来生きる力に私はつながると思うんです。食育も含めて。ですので、幼保小中の体力増進が大人になってすごく大事なことかなと思います。投げる力が弱いというところがあるんですが、間野先生のお力をいただいたり、あるいはドッジボールをやるとか、地域で何かやるとかということも含めて。シルバーの方をお願いするととても快くやっていただけることもあるようですし、是非地域での活動もあるといいのかなと思います。

部活もすごく一生懸命頑張っているもので、それだけ変わるんじゃないかなと思うのですが、是非運動、体力増進に向けて取組をさらに深めていただけたらと思います。

よろしく願いいたします。

今田委員長

ありがとうございました。私のほうから1つ。校庭の早朝開放をやっている学校がありますね。校長先生がそれこそ熱心なところはやっぱり一生懸命やっています。それは学校が変わってからも一生懸命やっています。

そうすると、地域のいろんな力が出てくるんです。学校によっては校長が頑張りすぎて困るところもきっとあると思うのですが、俗に「三間（時間・空間・仲間）」がないという中で、校庭の早朝開放に対して、うまくできるところとできないところがきっとあると思います。そういう要望も後押しというか、やろうとしているところをうまくリードしてあげることは、かなり大切じゃないか



などと思います。

ですから、通学の事情もいろいろあつたりするのですが、意欲的なところには、是非後押しをしていくことが大事じゃないかと思っています。

それから、6年後に東京オリンピックとパラリンピックが来る中で、それに向けて長い目でいろいろうまく利用するというように、知恵を絞ることも大事じゃないかと思っています。せっかくそういう大きなイベントが来るわけですから。そこはまた知恵を絞っていただくことも大事じゃないのかなと思いました。

教育長はどう思いますか。

岡田教育長

今、早朝開放のお話が出たのですが、うまくいっている学校の一番大きな理由は地域の理解なんですね。朝早く校庭で子供たちが騒ぐことに対して、地域が承知をしていただくと可能になるのです。

それから、白幡小学校に行った時に面白いものを見ました。地域のスポーツクラブが考えて、設置してくれた垂れ幕のようなものが大きくあるんです。子供たちが休みの時にボールを投げるのですが、それは去年出たデータを基に、うちの学校の子供たちは投げる力がないということを地域に対してオープンにした時に、近くのスポーツクラブが考えて寄附してくれたのです。その後ろ側が実はマンションなんですね。それで、投げるとものすごい音がするんです。ところが、マンションの方たちは、子供たちの体力向上のためなら我慢しますと言って、これまで1件も文句が出ていません。

このことも大事なことで、やっぱり子供を育むためにも地域の協力がないと、なかなか体力向上って難しいのかなというのがありまして、それはどうやって地域に理解を求めていくかという努力を、どうやってしていくかということにかかっているかなという感じがします。

今田委員長

かつて夏のプールの授業の時に、近所からうるさいと言われるという話を聞きました。校長先生は修学旅行へ行くと必ずお土産を買って、「いつも御迷惑をかけています」などと言って、近所にいろいろ配っているという話を聞きました。が、だんだんそういう中で理解を得られていくんですね。

ですから、多少次元が低いのかも分かりませんが、こちら側もいろいろと心を開いて地域の理解を求める努力をするというようなことなど、どの世界でも必要な話なんですよ。いろいろと物言う人もいると思いますが、そういう努力も大切なんじゃないかと思っています。

間野先生、オリンピックとの関係については、少し違う見方をされていますか。

間野委員

先週でしょうか、文科省が日本の学校の部活動という仕組みを対外的に輸出するというのを発表いたしました。学校の部活動は、体罰の問題やいじめ、しごきとかがあるんですけども、実は世界に誇る制度なのです。

委員長はくしくも「三間」とおっしゃいましたけれど、時間、空間、仲間がそろわないと子供たちはスポーツができません。子供たちにとって、身近にそろっているのが放課後の学校なんですね。しかも教員免許を持っている大人がきちっと教えてくれるという、これはすばらしい仕組みなのです。このあたりをもっともっと改善していく必要があります。

一方で、まだ調査中でありましてけれども、40%の教員が必ずしも自分がやりたい部活を見れていないような状況にある中で、例えば地域には熱心にスポーツを教えたい人や、資格を持っている人がいます。そのあたり、地域と連携して新し

い運動活動を作って、それを世界に示していくように、オリンピックを契機とした組み分け方もあるんじゃないかと思っています。

非常に良い仕組みなのですが、やっぱり制度疲労が一部出てきていますので、そこは地域の力を借りて改善していくというのが良いと思います。場合によっては学校運営協議会をうまく利用してみたらどうでしょうか。学校と地域をつなぐ時に、音楽も美術もいろんな方法があるのですけれども、スポーツというのはうまくつながりやすいものの一つです。それをコミュニティスクールでのスポーツで行うか分かりませんが、何かそんな方向を模索していくというのが、子供の体力だけではなくて、他の広がりも出てくるのではないかなという予感がしています。

以上です。

今田委員長

分かりました。ありがとうございました。

それでは、御質問等がなければ、次に議事日程に従い、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開についてお諮りします。

教委第57号議案「横浜市学校保健審議会委員の任命について」ほか、教委第60号議案から教委第63号議案までは人事案件のため、教委第58号議案「平成26年度歳入歳出予算案に関する意見の申出について」、教委第59号議案「平成25年度歳入歳出予算案（2月補正）に関する意見の申出について」は、事前に公開することにより議会の審議等に著しい支障が生じる案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、教委第57号議案から教委第63号議案までは、非公開といたします。

議事日程に従い、教委第56号議案「横浜市学校保健審議会への諮問について」所管課から説明をお願いします。

斉藤健康教育・人権教育担当部長

健康教育・人権教育担当部長の斉藤でございます。学校保健審議会への諮問内容についてお諮りをさせていただきたいと思います。

内容につきまして、担当課長から御説明いたします。

永峯健康教育課長

健康教育課長の永峯でございます。学校保健審議会への諮問につきまして御提案をさせていただきます。

提案理由ですが、保健、安全の管理及び教育について、必要な事項を審議するため、横浜市学校保健審議会へ諮問したいので提案いたします。

諮問の中身と諮問の理由についてでございますけれども、3ページをご覧ください。学校における今後の薬物乱用防止教育及び啓発の充実について諮問を行いたいと考えています。

理由といたしまして、近年、乱用される薬物が多様化する等、若者への広がりが懸念されている状況を踏まえ、内閣府の薬物乱用対策推進会議では、平成25年8月7日に「第四次薬物乱用防止五か年戦略」を決定し、その目標の中で、学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実強化を求めています。

横浜市の学校においては、薬物乱用につながる喫煙や飲酒の防止も含め、学習指導要領に基づく指導のほか、学校外講師等の協力を得た薬物乱用防止教室等を開催していますが、必ずしも継続した取組になっていないこと、また小学校においては、関心が高まりにくいことが課題です。

子供たちが身近な問題として捉えられるようにするためには、乱用することによる健康への影響や、依存症・疾病との関わり等を、発達段階に応じた方法で伝えることが必要であり、医療や保健等の専門の立場から、効果的なアプローチや、継続的な指導方法について、御意見を伺います。

また、薬物乱用等について悩みを抱える子供たちからの相談に応じることができ、学校内の体制づくりや、学校医等との連携のあり方について、御意見を伺います。

以上、御提案させていただきたいので、よろしく願いいたします。

今田委員長

説明が終了しました。御質問等ありましたら、どうぞ。よろしいですか。御意見等なければ、第56号議案については原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

では、原案のとおり承認いたします。  
以上で、公開案件の審議が終了しました。  
その他、委員の皆さんから何かございますか。  
事務局から何か報告事項はありますか。

伊東総務課長

1月20日に受理番号18、1月22日に受理番号19として日の丸、君が代に関する要望書が提出されております。

これらの要望書等につきましては、教育長に委任する事務等に関する規則第2条の規定に基づき、事務局で調整し、回答させていただきます。

次の教育委員会定例会は2月7日、金曜日の午前10時から開催する予定ですので、よろしく願いいたします。

今田委員長

よろしいでしょうか。それでは、次回の教育委員会定例会は2月7日、金曜日の午前10時から開催する予定です。別途通知しますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。

傍聴の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も御退席ください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<削 除>

今田委員長

本日の案件は以上です。  
これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午後0時20分]